

グローバルエンジニアリング

来月、持ち株会社に移行

経営効率化へヘルスケア事業強化

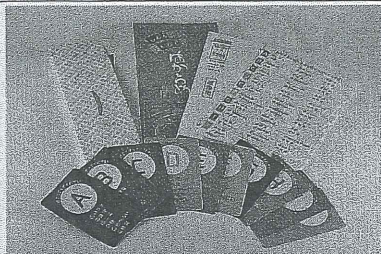
健康食品や化粧品などの開発、販売を手掛けるグローバルエンジニアリング(本社名古屋市中村区名駅、荒川健一社長)は、12月から持ち株会社に移行する。意思決定の迅速化や経営の効率化を図る。高齢化社会の進行を背景に拡大が見込めるヘルスケア事業を強化し、持続的な成長をめざす。



荒川健一社長

ヘルスケア事業を展開している。産業用ロボットの製造・開発事業も手掛け、2017年3月期の売上高は約30億円。従業員数は約20人。

12月1日付で持ち株会社「GEホールディングス」(HDD)を設立する。ヘルスケア事業やロボット事業の部門を分社化し、事業会社5社を傘下に置く。認知症診断キットの展開、サプリメントなどのヘルスケア商品の機能性成分の研究、微生物の製造、ロボット製造・開発などの事業領域を新会社として独立させる。G



新体制でヘルスケア事業を強化する(写真は認知症を診断する簡易キット)

EHDの社長はグローバルエンジニアリングの荒川社長が兼務する。グローバルエンジニアリングは、事業の選択と集中を進め、ヘルスケアに経営

資源を振り向ける方針を打ち出している。12月9日、非ヘルスケアのコンビニエンスシステム開発子会社を「エムシーホールディングス」(本社西尾市)に売却したが、持ち株会社制を機にヘルスケア強化の姿勢を一段と鮮明にする考えだ。

新体制に伴う各事業の底上げで、18年11月期に連結売上高35億円をめざす。荒川社長は「優秀な人材を積極的に採用していく」とし、グループ全体の従業員数を今後3年で現行比3倍の60人に増やす意向を示している。